

御祈願所御代禮恒規之通無指支相勤申候、年甫御嘉祝奉申上度捧愚札候、恐惶謹言、

右は披露狀同前の格にて、殿の御前へも出るものなれば、家老の身分の會釋は書べからず、別紙の付届にする事也、○中略

用人番頭 江 年頭狀之格 御 大名家にて、用人番頭は同格なり、

改年之御吉賀不可有休期御座奉存候、於江府上々様倍御機嫌能被遊御重歲、御嘉例之御規式萬端首尾能相濟可申と、恐悅之至奉存候、次御手前様彌御勇勝御越歲可被成、珍重之御儀奉存候、年首之御祝詞申上度如斯御座候、恐惶謹言、

同役人 江 遣文章

新春之御慶不可有際限御座候、殿様益御機嫌能被為遊御越年、元日之御登城無殘所首尾能相濟可申と、恐悅御同意奉存候、且貴様愈御堅固御迎陽可被成、目出度存候、當方拙者不相替致加年候、年頭之御祝儀為可得御意如斯御座候、猶期永陽之時候、恐惶謹言、

下役人 江 遣年始狀 隨分文字を省し、

革曆之吉賀不可有盡際候、其許御自分彌御無為可為加歲、重疊御事存候、當表我等前體ニ令加年候、始元之御祝詞為可申演、如茲候、恐惶謹言、

〔細川家書札抄〕公儀 江 年始之御禮言上之時、書札調様事、

改年 年甫 青陽 新春 明春 孟春 明年

春三ヶ月之内、可有替儀候歟、文章以外心得在之、

一 謹而言上と書候哉、此謹而は可為無益候

一 進上謹上ニ可有心得事也

一 爲年始之祝儀、御何々致進上候、宜預御披露候、

一 抑又は仍ともあるべし、同事